

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホームのぞみ
（ユニット名）	B棟
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県薩摩川内市祁答院町蘭牟田2103番地6
記入者名 （管理者）	富田 久子
記入日	平成21年7月1日

(様式1)

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	地域密着型サービスとして、地域の方々と関わり を持ちながら、生活できるような理念をつくりあ げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	理念をきっかけ、共有し、実践できるよう取り組ん でいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム内のあちこちに、理念をきっかけ、皆さんの 目に入るようにし、家族、地域の方々の理解へ向 けて努力している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ 合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	隣近所のないところにあるため、隣近所とのつき あいはないが、クリニックの患者様やディサービ ス利用者の方々が気軽に立ち寄ってもらえるよう 声かけをしたりしている。	○	デイケアやデイサービスとの交流会が もっと活発に行えるよう取り組みたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としての地域活動への参加は行ってい ないが、ボランティアの受け入れ、特養の行事へ 参加して地域の方々との交流をしている。	○	地域のコミュニティセンターの協力を得な がら、地位行事への参加をし、交流でき るようしていきたい。地域の子供達との 交流もやっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献は出来ていない。	○	地域のひとり暮らしの高齢者等に声をかけ、遊びに来ていただき、交流ができたらと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することにより、振り返りができ、反省することができる。外部評価を活かし、改善できるように努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域からの情報、行政、支援センターからの情報をサービス向上に活かせるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に実情を伝えたり、入居等に関しての困難事例を相談したりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修に参加し、制度の理解ができるようにしている。これまで、活用したことはない。	○	勉強不足なので、知識の向上を図るためにも、研修会には参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ研修に参加し、虐待のない事業所であるように務めている。	○	身体的虐待もないよう注意を払い、防止しているが、言葉による心理的虐待がないように特に注意し、気をつけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まった段階で、契約書、重要事項説明書に目を通していただき、契約を交わす際に説明をし、理解していただけるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、常に日常の生活の会話に耳を傾け、会話の中から、意見や不満をくみ取り、改善できるよう努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回発行の「のぞみ新聞」にて、近況報告し、また、遠くの家族にはTELやメールにて近況の報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方からは、新年会、家族会の機会や面会時に意見を聞き、反映できるようにしている。意見箱を設置しているが、なかなか投函がない。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に職員の意見や提案をする機会はある。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者、家族に合わせて、勤務の調整をしている。また、行事によって職員の数を増やし、安全が確保できるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職の時には、2～4週間の準備期間を持って、現職員と次期職員を配置し、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、月1回あり、受ける機会はあるが、外部の研修を受ける機会が少ない。	○	医療に関する勉強会は、月1回（30分程度）同敷地内にあるクリニックのDr.により、行ってもらっている。認知症に関する勉強会にもっと参加したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会による研修会があるが、意見交換や交流はなされていない。	○	交流会等積極的に参加し、サービスの質を向上させていきたい。相互訪問、ネットワーク作り等の活動ができればと考えてはいるがなかなか実現できない。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	昼に休憩する時間も場所もない。	○	ストレスを軽減解消する機会を設けられたら、と思う
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全体としての努力や実績は把握され、向上心を持って働けるよう配慮されている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人に逢い、話す機会を設けているが、家族との話しがほとんどで本人様には、入居されてから、多くのことは聴くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでのことを良く聴き、困っていること、不安なことを受け止め、信頼関係が築けるようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みに来られた時、その時の状況を把握し、その時に必要な支援のアドバイスも時にやっている。ケアマネを通してのが多く、その方には部屋に空きが出でから対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームを見学していただいたり、雰囲気を感じ、入居者様と触れ合う機会を設ける体験（日中のみ）も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のこれまでの生活や暮らしを大切にし、人生の大先輩として教えていただきながら、喜怒哀楽を共にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の生活の様子をできるだけ家族にお話し、情報を共有し、喜怒哀楽も共にし支えていけるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係を理解しながら、行事等への参加をお願いし、関わりを持っていくことによって良い関係が築けるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努めて いる	お盆、正月の帰省、お墓参りなど家族をお願いし ている。どうしても、ご家族ができないときには 職員で支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合える ように努めている	入居者様同志が関わり、支えあって生活できるよ うに支援している。	○	トラブル防止に努め、GHたがらこそでき る関わり合いや支えあいを支援し、笑顔 のある、笑いのある生活ができるように していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的 な関わりを必要とする利用者や家族には、関係 を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方に逢いに行ったり、年賀状を出した りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の 把握に努めている。困難な場合は、本人本位に 検討している	思いや意向を日常の会話の中から引き出しなが ら把握し、本人の思いや意向にできるだけ近づけ るように検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生 活環境、これまでのサービス利用の経過等の把 握に努めている	本人様より聞いたり、ご家族の方に尋ねたりし て、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状を総合的に把握するように努め ている	一人ひとりの暮らしの中で出来ることを一つでも 多く、発見できるように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間では、月1回もしくは必要時、ケア会議をし、より良く暮らしていただくために、カンファレンスを行い、計画の見直しをしている。ご家族や本人の意見を取り入れ計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院後などの状態の変化が生じた場合には、家族やスタッフと話し合いをし、見直している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入し、情報共有としては、個別記録の他に申し送り張や連絡帳を活用している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方に住まいの家族が、訪問された時居室に泊まり、過ごしていただけるようにしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回のボランティア訪問は定着しており、レクの提供や掃除（草取り）など協力して下さっている。交流会も行っている。	○ 地域の老人会や子供会との交流、地域のコミュニティ協議会、消防団との協働ができるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの利用支援はないが、介護用品の購入時など支援センターのケアマネに相談したり、またかかりつけクリニックの大浴場を利用させていただいたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はなされていない。	○	運営推進委員会への参加をお願いできれば良いと思う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックが併設され、適切な医療が受けられ、入院が必要な場合は系列の病院へ入院し、治療を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の往診を月2回受けられ、職員が相談しながら、治療を受けられている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設のクリニックの看護師や同系列の特養の看護師に相談したり助言をもらったりしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には日常の生活情報を提供し、入院された方が安心して過ごせるよう、できるだけ見舞いに出かけるようにしている。早期に退院ができるよう相談しGHで対応可能な状態になったら、なるべく早く退院できるようにお願いしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際、GHは最終の施設ではなく、通過施設であることを理解していただき、重度化した場合、終末期のあり方については、早い段階から話し合い、検討を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できる事、できない事を見極め、支援している。今後のことについては、家族と話し合い、病院への入院や施設入所など検討するようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活環境、支援の内容などの生活情報を提供し、環境の変化によるダメージを少しでも防ぐことができるようにしている。機会を作って訪問するようにしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけ、対応をしないように充分気をつけ、職員の意識向上に努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	できるだけ自己決定の機会を増やし、希望や意見が表出できるような声かけをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に合わせるのではなく、一人ひとりの体調に合わせて、その方のペースにあった生活ができるように支援している。本人の希望を優先した生活の支援。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	洋服の洗濯は本人が決められている。どうして も、出来ない方には、いくつかの中から選んでい ただくことをしている。散髪や髪染めは本人の希 望により、スタッフで行っている方もある。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	野菜きり、盛り付け、片付けなど入居者様も一緒 に行い、週1回は食べたいメニューを決めていた だき、一緒に買い物に行き、一緒に調理をする クッキングデイを設けている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ 等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて 日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーや飴、黒砂糖など好みの物を楽しめるよ うにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の仕方や間隔などを把握し、その方に合った 排泄の支援をしている。誘導時、失敗時の声かけ はさりげなく行い、プライドを傷つけないように している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせ て、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を自分で決めていただき、希望に合わせ ている。タイミングを見て声かけしている方もある。	○	温泉であり、併設のクリニックの大浴場 に出かけることもある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応 じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよ う支援している	ひとりひとりの体調に合わせ、休息をとっていただ き、ソファで休まれている時にはひざ掛けを掛 けたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、 楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくり（野菜きり、盛り付け）や小さなこと も役割分担をし、また、梅干作り、切り干し大根 作りなど、これまでやってこられたを発揮できる 機会を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理 解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持っている方、財布を預かっている 方それぞれですが、何か買うときには財布から出 していただくようにしている。小遣い帳に記入し てもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの その日の希望にそって、戸外に出かけられるよ う支援している	毎週火曜日のクッキングデイには、交替で買い物 に行かされている。墓参り、買い物は希望があれば 支援している。外出の機会を1回でも増やせるよ うにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないと ころに、個別あるいは他の利用者や家族ととも に出かけられる機会をつくり、支援している	遠足や花見などが外出する機会を作っている。家 族の方と墓参りや外食に出かけられることもあ る。	○	2～3名の方とドライブやお茶のみ、買 い物など楽しみの機会を作り支援してい きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙を書かれたら投函するなどの 支援をしている。年賀状は本人に書いていただ き、本人の希望される方へ出されている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ご せるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるようにしてい る。自室に案内し、ゆっくり過ごされたり、リビ ングで皆さんと一緒に過ごされたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをしている。権利擁護や身体拘束についての勉強会に参加し実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関には鍵をかけることはない。外に行かれる方は、見守り、付き添い、本人の思いにできるだけ添うようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認をしやすい間取りになっているが常に所在や様子の確認に努めている。夜間もすぐに対応できる位置で記録などしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみやカミソリ、裁縫道具など個々の状態に応じて管理をしている。包丁は夜間、手の届かないところへ保管、洗剤などはカーテンで目隠しをし、目に入らないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとりひとりのリスクを検討し、未然に防げるように工夫している。転倒防止に滑り止めマット、誤薬には、手渡し服用、見守り服用など状態に合わせて支援している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDを設置していただき、救急救命法の実技講習を受けている。	○	いざという時には不安があるので、定期的な訓練と事故を想定しそれに対する対応方法など勉強していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災非難訓練は行っているが、地震や水害は行っていない。夜間の想定訓練はあるが、夜間の非難訓練も必要である。	○	地震の際、頭を守る頭巾を準備している。地域の人々の協力を得られるような働きかけが必要である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、家族に伝えるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握し、体調の変化や異変の発見に常に努めている。情報を共有し、状況によっては受診につなげたりしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方が変わった時には、説明書を確認し、服薬による病状の変化を見逃さないように気をつけている。服薬時は手渡し、きちんと飲まれたかを確認している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	予防のために、朝に牛乳、10時にヨーグルトを摂取していただき、体操や散歩をすることで体を動かす機会を作っている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りをしたり、介助をしたりしている。就寝時には義歯洗浄をしている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はひとりひとりに合った量、水分量は脱水にならないよう、こまめに摂取していただいている。水分量、食事摂取量を記録し、食事摂取量の不足が続く場合は、補助食品で補ったりしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する対処方法などを学習し、予防に努め、また、まん延防止にも努めている。インフルエンザ予防接種は家族の同意をもらい、年2回接種を行っている。（職員も）	○ うがい、手洗いの励行・ペーパータオルの使用・アルコール消毒の使用

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒には充分に気をつけ、管理栄養士の指導のもと、食材の管理、使用、調理用具等の衛生管理をしている。食材は毎日、新鮮なものを届けてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には、ベンチやプランターを置いてある。ベンチはいこいの場になり、談話をしたり、世間を眺めたりされている。プランターには季節の花を植え、和やかな親しみやすい雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節に合った飾りをし、季節感を大事にしている。共同の空間の近くには、台所、お風呂場があり生活の音が聞こえてくる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり、TVを見る、新聞を読む、談話をするなど思い思いに過ごせるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家から持ち込んでいただいた家具を置き、ご主人の写真や家族の写真を置かれている方もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開け換気をし、気になる臭いは消臭に努めている。温度調整は入居者様に合わせて行っている。	○	配水管、空調機等の専門業者による点検を年1回でも行って欲しい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	廊下やトイレ、浴室、居室には手すりを設置し、 安全と自立への配慮をしている。物干しを低くし て、干しやすくしたり環境作りをしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室には名札をつけ、自室がわかりやすくしてい る。お茶碗や湯のみはひとりひとり違う物を準備 し、自分の物が判るようにしている。	○	出来ることを無理のないよう、その方に 合わせ発揮してもらっている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭に小さな菜園を作り、植える喜び、収穫の喜び を味わっていただいている。駐車場が広く、良い 散歩コース。ベンチを置いてあり、休憩場所であ り、レクリエーションの場でもある。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

項 目			回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	②

項 目			回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいの ③職員の1/3くらいの ④ほとんどいない	②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいの ③家族等の1/3くらいの ④ほとんどできていない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「暮らし」を大切に、自分で出来ることを何でも少しでもやっていただきながら、生活していただいている。

*料理（野菜きり、盛り付け、配膳）、洗濯（干す、たたむ、片付ける）、掃除（掃き出し、拭き掃除）

*野菜作り、保存食作り（らっきょう漬、梅干、干し大根）

*季節の行事と行事食く正月（おせち料理）・節分（巻き寿司）・桃の節句（散らし寿司）・端午の節句（ちまき）・お盆（盆団子）・年の暮れ（もちつき）など

*毎食前の嚥下体操

*レクリエーション（タオル体操・脳レクなど）